

ニホンザルの生態と対策

ニホンザル(以下サルとする)は学習能力が極めて高い動物です。どんなときに何をすれば農作物を守れるのかを知るためには、まず知恵比べの相手であるサルのことを知っておくこと。“まず柵ありき”は間違いです。

生態

食性 雑食性で、植物性のものを中心に食べます。果実や虫も好んで食べますが、肉や魚は食べません。トウガラシ、コンニャク、シソ、ゴボウ、ショウガ、ワラビなど、辛味や香り、アクの強い植物を避ける傾向が見られます。

行動 早朝と夕方が採食のピークで、日の出から日没までの明るい時間だけ活発に行動し、夜間は活動しません。群れによる集団で行動し、決まった行動範囲の中で周期的に動きます。群れはメスと子どもを中心に構成され、十数頭から百頭を超えることもあります。オスは大人になると群れを離れて単独で行動したり、他の群れに移ったりします。また、高い学習能力を持ち、集落内の食べられるものを少しずつ覚えていきます。木登りとジャンプが得意です。

繁殖 交尾期は年1回で秋から冬、出産期は春から夏です。2～3年に1頭の割合で出産しますが、エサが豊富にあると年1頭ずつ産みます。寿命は20歳前後です。



タケノコも大好物

特徴

- 視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚は人間とほぼ同じです。
- 記憶力は抜群で、一度味わった恐怖体験は忘れません。場所や状況も覚えています。
- 土地への執着は深いですが、群れ同士のバランスがくずれたり、環境に大きな変化があれば新しい土地に適応する柔軟さもあります。
- 新しいものや状況、場所を警戒しますが、いったん慣れると大胆に行動します。“人慣れ”が進むと追い払うのは難しくなります。
- 長距離を走るのは苦手で、安全な場所から離れることを嫌がります。
- 群れで行動するので、数頭が柵越えてきてエサにありつけても他のサルが入れないとそのエサ場はあきらめます。

被害状況

- 主に果樹、野菜、水稻、大豆、イモ類が被害されます。特に、春と秋に被害が多くなります。
- 群れで加害するので、短時間でも被害が大きくなります。



オスは単体で行動することも

被害防止のためのワンポイント・アドバイス

1 エサになるものを野外に放置しない!

サルはいつでもエサを狙っています。軒先など屋外にはエサとなるような農作物を保管しないでください。集落内に放置された生ごみ、収穫されない果実、遅れ穂などは格好のエサとなります。



2 地域ぐるみで「追い払い」を!

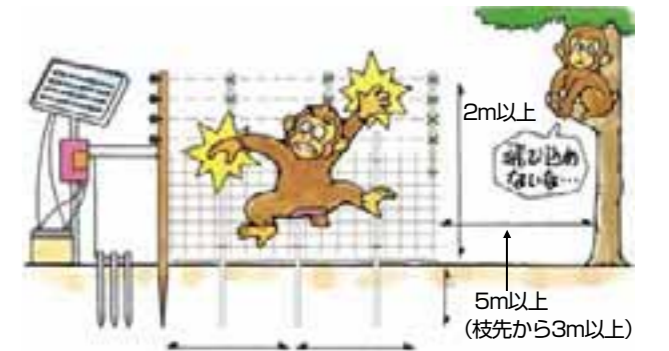
サルの唯一の天敵は人間です。侵入したところを脅かされるなど、怖い目にあうことの多い集落は次第に避けるようになります。追い払いなどの威嚇する行為は、あきらめずに集落全体で力をあわせて根気よく進める必要があります。

3 サルの習性を考えて柵の設置を!

防護柵を設置するのは一つの方法です。しかし、柵が樹木や建物のそばにある場合、ジャンプして柵を乗り越えます。飛び移れないように防護柵は周囲の樹木や建物などから5m以上あける必要があります。また、サルが手を伸ばしても盗まれないように、農作物は柵から離して植えつける必要があります。

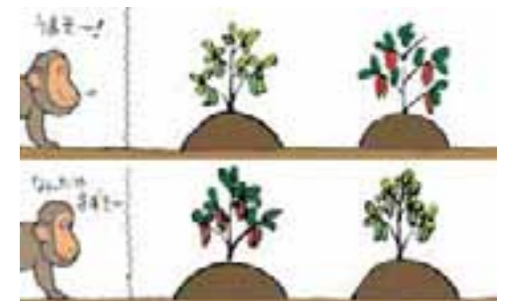
4 電気ショックも効果あり!

サルは柵をよじ登って侵入します。電気柵は地面に足が着かなくてもショックを与えることのできるものが有効です。



5 サルの嫌がる作物を畑のまわりに!

サルによる被害が少ないとされる作物(トウガラシ、コンニャク、シソ、ゴボウ、ショウガ、オクラなど)を畑の周りや柵のそばに植えたりして「嫌がらせ」をしたり、果樹の場合には柵や網で囲い込めるように低く仕立てたりするのも一つの方法です。



手前に嫌いなトウガラシを植えると近づきにくい